

日時：平成23年7月23日 13:30～
会場：宿毛商工会議所

1. 開会

ただ今から幡多地域の皆様と知事との「対話と実行」座談会を開催させていただきます。

この座談会は、尾崎知事が各地域にお伺いして、地域の実情や課題をお聞かせいただいで、県政に反映させていこうと、平成20年度から開催しています。

今年度は「地域の活性化」をテーマとして、県内を7つのブロックに分けて開催させていただきます。本日は、この幡多地域で産業や福祉等の分野で活躍されている10名の皆様にご参加いただいております。

～このあと、市町村関係者、県議会関係者、県関係者の紹介と要約筆記（聞こえの不自由な方にその場で音声を文字にして伝える活動）の実施についても紹介が行われました～

2. 知事の県政方針の話

(1) 「対話と実行」座談会

本日はお忙しい中、「対話と実行」座談会にご参加を賜りまして、どうもありがとうございます。県民の皆様との対話を通じていろいろなことを教えていただき、政策を練り上げて、それを実行していくと、そういう思いを込めて「対話と実行」座談会と言わせていただいております。平成20年度から実施いたしまして、今回で63回目になります。毎回、いろいろな形で意見交換をさせていただいて、そこから多くのことを学ばせていただいております。

例えば、福祉分野で「あったかふれあいセンター」を作ることとしましたのは、この座談会でお知恵を賜ったことが契機となったものですし、また産業振興計画の地域アクションプランの一段階前の取り組みを支援するステップアッププランを作ることになったのも、この座談会を通じた議論でした。今年度は県内を7ブロックに分けて、それぞれの地域でお話させていただいているところですが、今日はこの幡多地域で実施させていただくこととなりました。どうぞよろしく願いいたします。

(2) 県政の概要 ～経済の活性化～

まず経済の活性化についてですが、今年で産業振興計画が3年目になります。今、県の政策は毎年度PDCA(Plan 計画-Do 実行-Check 検証-Action 改善)サイクルを機能させ、改善を図っていく、そういう取り組みを続けてきているところです。産業振興計画におきましても、22年度までの取り組みを踏まえて計画の改定をし、進めているところです。

この産業振興計画は、とにかく人口減少に負けない経済体質を作っていきたいということで、「地産外商」を進めていかなければならない、外貨を稼いでこられるような高知県経

済にしていきたい、そういう思いで計画を進めてまいりました。生産地における技術支援から始まり、販路開拓まで様々な形での取り組みを進めてきました。また、皆様にも協力を賜りまして、地域アクションプランを策定し、それぞれの地域で事業を起こしていく取り組みも進めてきました。

やはり、平成22年度は龍馬ブームが非常に大きかったと思っています。例えば観光につきましては、前年比4割増ぐらいのお客さんが来てくれました。また、地産外商の契約件数は、地産外商公社取り扱いで平成21年度が178件、平成22年度はこれが444件に拡大し、先に進んできた部分があります。

しかしながら、他方でいくつか課題があるのも事実です。何と云っても、龍馬ブームが一定収まってきた中で、どうやって観光のペースを維持していくか。さらには売り込みを引き続きどうやって維持していくか、これが非常に大きな課題となるわけです。

さらにもっと言えば、地産外商の「地産」の部分、高知県内でものづくりをして外に売っていくという、この部分の弱さも大きな課題として見えてきています。ご存知のとおり、高知県の原料を使っている、メイドイン愛媛やメイドイン広島というものが結構多いわけですね。加工していく工程を県外で行っているということが非常に多い。できる限り県内事業者同士でものづくりをして、メイドイン高知のものを増やして外に売って、高知県が地産外商で潤うことになるのだと考えています。高知県内でのものづくりをさらに強化するため、「ものづくり地産地消センター」を6月にオープンし、補助金などの様々な支援を強化する等、いろいろな取り組みを進めようとしています。

(3) 日本一の健康長寿県構想

続きまして、日本一の健康長寿県構想です。こちらは昨年1年間の取り組みを踏まえて改訂し、バージョン2ということになります。まず、保健分野ではがん対策の取り組みを大幅に強化したいと考えています。また、特定健診、がん検診の受診率向上を更に進めていくための取り組みを強化していきます。

また、今80歳で20本以上自分の歯を持てるようになろうという「8020運動」を進めているところですが、「高知県歯と口の健康づくり条例」に基づいて、来年度以降取り組みを本格化したいと考えています。

次に、医療の分野では医師確保に力を入れています。昨年度、高知医療再生機構を設置し、今年で2年目となります。県外の私立大学と協定を結んで、県外から医師を招へいする、また、直接医師をリクルートしてくる取り組みを強化しました。加えて、今年の3月から実質2機目となるドクターヘリを導入して、救急体制強化を実施しています。

そして、福祉の分野では、「あったかふれあいセンター」の取り組みを更に強化するとともに、認知症疾患医療センターの設置など、認知症対策の強化を図っていきたく考えています。

(4) 学力向上について

次に、教育の問題についてです。高知県の学力の状況は非常に厳しいものがあります。特に、公立中学校については学力テストの結果が全国46位でした。そこで、この2年間様々な形で取り組みを行ってまいりました。宿題を出していなかったところに、宿題を出すようにする、さらには補習を行っていくための教材を作るなど、しっかりと日々の学習を拡大していく取り組みを進めてまいりました。

おかげさまで小学校は今、全国平均まで改善しています。中学校についても、改善率という点においてはこの3年間で全国第1位です。学力テストの結果はまだ46位ですが、徐々に差が縮まってきて、確実に上向いてくるようになってきましたので、この流れをしっかりと持続させていきたいと考えています。

(5) 南海地震対策

最後に、高知県にとって非常に大きな課題であります南海地震対策についてお話させていただきます。とにかく、南海地震への備えを全速力で進めていきたいと考えています。あわせて、その中で必要なインフラ、少々の災害では寸断されることのない道、さらに救急医療などを支える命の道、いざというときに避難路となる道、そういう道の整備を「8の字ネットワーク」や1.5車線の道路の普及などを通じて進めたいと考えています。

最後になりますが、この度の台風6号によりまして、幡多地域においても床下浸水や、一次産業に大変な被害が出ましたことを心よりお見舞い申し上げたいと思います。今回の台風で、安芸の穴内では堤防が破壊され、北川村では大規模な土石流が起こり、改めて高知県は、災害への備えがまだまだ足りていないということが明らかになりました。これから県として、台風6号による被害の復興復旧に向けて全力をあげて取り組みを進めていきたいと考えております。